

小学校 第1学年 算数科 「かたちづくり」

育成を目指す資質・能力について

算数科、第1学年、「かたちづくり」において、児童が作った形をタブレットで撮影し、電子黒板に写すことで、実物と同様に指し示しながら説明した実践例を紹介します。今まで具体物を使った操作活動は、その結果を残していくことが困難でしたが、つくった形をカメラで撮影することで、児童が「〇個もつって撮ることができた！」と意欲的に取り組み、ふりかえりでは具体的に図形の構成要素に着目することができました。

- ・ 具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動を通して図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。【知識・技能】
- ・ ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えている。【思考・判断・表現】

事例の概要

流れ	児童	教師
①	数え棒を使って形を作るという活動への見通しを持つ。	
②	めあてを確認する。 かぞえぼうでも、いろいろなかたちをつくることができるかたしかめよう。	
③	三角や四角など基本的な形を数え棒で構成する。	前回保存した、色板でつくった形を見ることで、参考にしながら操作させるようにする。
④	自分で作りたい形を決め、数え棒でその形を構成し、タブレット端末のカメラアプリで記録する。	
⑤	つくった形をペアや全体で発表する。	話型を提示し、それを参考に発表することができるようにする。
⑥	学習のまとめ、ふり返りをする。	

【事例におけるICT活用の場面】



自分で構成した形を撮影する場面



「数えぼうを〇本使って、～の形ができた。」のように、使った本数や形について具体的にふり返る場面

【事例におけるICT活用のポイント】

- ① 前時の操作活動の写真を参考にすることで、本時の学習活動の見通しを持たせるようにする。
- ② つくった形の写真を電子黒板に提示し、「数えぼうを〇本使って、～の形が〇個～にある。」と具体的に図形の構成要素に着目させる。